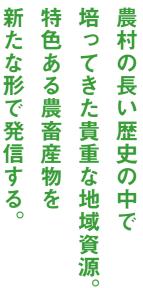
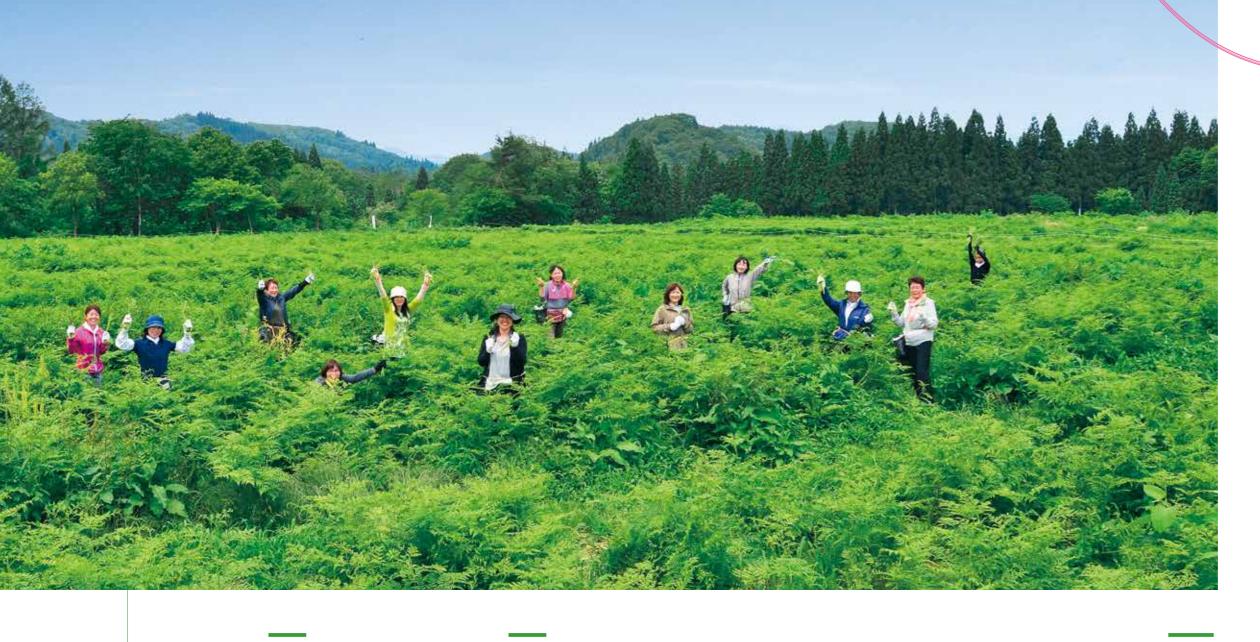
可能性 農業と地域 6次産業化で輝く

ジメダ・人と地域と農業





新たな農業の形農業所得向上と農村の活性化につながる

難しい現状がある。 全体の所得の向上は、 所得も、平成25年には約3兆円と半減。農業と農村 ている。約20年前は全国で約6兆円近くあった農業 農業生産額及び、 農業所得は、近年大きく減少し 農畜産物を生産するだけでは

商品として発信する事。 けて販売に繋げる事や、 そんな中、必要なのは、農畜産物に付加価値を付 新たな農畜産物の価値を見いだし、 異業種との横の繋がりを持 地域特有の

のだ。 がる。それが農業の新たな可能性を生み出 の活性化、 人が知り、 その商品に込められた思いやスト そして農業所得の向上に繋がっていく 評価される事で地域や商品の知名度はあ ij -を多く 農村

業化」と、生産者と商工業者がそれぞれの有する力 農作物に付加価値を付けて販売につなげる「6次産 「農商工連携」。 を互いに持ち寄り、 そのきっかけのひとつが、生産者自らが展開する、 新商品の開発や発信につなげる

アピールにもつながる。 ん、地域の活性化や観光入込客数の増加、 これらは、農業者らの所得や経営の向上はもちろ O

6次産業化ってなんだろう?

付加価値を高めること。 業(販売等)にも主体的にかかわり、 だけでなく、第2次産業(加工や製造)や第3次産 6次産業化とは、農林漁業者が第1次産業(生産) 農林水産物の

漁業の可能性を広げようとするもの。 観光農園、農家民泊、農家レストランなどもあげら れる。1次から3次まで一体化した産業として農林 6次産業化の形態には、農産物加工、 直接販売、

農商工連携ってなんだろう?

6次産業化で輝く農業と地域の可能性

の拡大などに取り組むこと。寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路商工業者がお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち 域の貴重な資源を有効に活用する為、 農商工連携とは、農畜産物や美しい景観など、 農林漁業者と

する喜びがたまらない」「また来たい」という声がきこえたは「自然が美しい」「この町の事をもっと知りたい」「自分で収穫で、地元名産品の西わらびの収穫体験をする観光客。体験者から6次産業化に取り組むやまに農産株式会社の「つきざわワラビ園」